

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	総合文化祭補助金（角館地区）									
担 当 課 係 名	角館公民館		課	-		係	作成者	赤倉武弘		
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱		明日を担う人材を育む教育文化の町					総合計画の ページ		
	基本計画		芸術文化活動の振興と文化財の保護							
	主要施策		芸術文化団体の振興					99		
予 算 費 目	一般		会計	10 款	教育費	5 項	社会教育費	2 目	公民館費	
事 業 期 間	平成		年度		～	平成	年度		新規 / 継続の区分	継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理									
根 拠 法 令 等	仙北市補助金等交付規則第 3 条による									
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務									
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助									

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	仙北市民を対象
事業の目的・意図 （どういう状態に したいのか）	芸術文化振興のため
事業の内容 （どのような業務、 活動を行うのか）	角館公民館を主としたサークル活動団体・公民大学受講生と芸術団体・一般市民が 文化活動で交流を深める。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	活動日	目標	日	8	8	8	
			実績	日	8	8	8	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標	入場者	目標	人	1,000	1,000	1,000	
			実績	人	813	937	1,465	
			達成度	%	81.3%	93.7%	146.5%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				100	150	150	
	人 件 費 (B)		—		236	242	238	
	財源内訳	職 員 数		—		0.03	0.03	0.03
		職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925
		(A) + (B) 投下コスト				336	392	388
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				336	392	388
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		42,000	49,000	48,500
		市民1人当たりのコスト(円)		—		11	12	12

【事務事業の今までの成果】

芸術文化に対する意識が高い市民（角館地区）が多く、参加者数・来客者数は年々増加している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	特になし
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	参加者の方や来館した方々より文化祭らしいと概ね好評だった。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	現在、各地区で毎年同じような内容で行っている文化祭を、これからは仙北市全体の文化祭として捉え、地区別文化祭を廃止し統一して行うべきでないかと判断してB 2判定と判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

各地区で行っている教室、講座、サークル、芸術文化団体等の連携をより一層緊密なものにし、仙北市の文化を大事にし、文化祭そのものを独立させ委託事業として行う。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	市内における芸術文化振興や、活動成果を発表する場として重要な事業です。今後は各地区の特長を活かし、充実を図りながら、市全体の文化祭としての開催ができないか検討が必要と考えます。

一次評価診断図

